

令和3年海岸功労者一覧

功績区分	事 項				推薦者
	番号	都道府県	個人・ 団体	氏 名・団 体 名	
海岸愛護	1	青森県上北郡	団体	野辺地町漁業協同組合	青森県
	2	新潟県胎内市	団体	胎内市立築地小学校	新潟県
	3	石川県珠洲市	団体	能登建設株式会社	石川県
	4	兵庫県豊岡市	団体	兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ	兵庫県
	5	山口県周南市	団体	山口県釣り団体協議会	山口県
海岸事業に 関する研究	6	宮城県仙台市	個人	首藤 伸夫 (東北大学 名誉教授)	東北地方 整備局
	7	佐賀県佐賀市	個人	三浦 哲彦 (軟弱地盤研究所 所長)	九州地方 整備局
都道府県（5団体） 地方整備局等（2個人） 合計（2個人・5団体）7件					

海岸功労者功績調書

1-3. 海岸愛護 (5 団体)

(敬称略)

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
1	青森県	団体	<small>のへじまちぎょうぎょうきょうどうくみあい</small> 野辺地町漁業協同組合 (代表理事組合長 <small>やまがた かつひこ</small> 山縣 勝彦)

(功績概要)

野辺地町漁業協同組合は「陸奥湾の海岸環境の維持保全」を目的に、野辺地町の日ノ越・砂沼海岸線(約1～2km)の清掃活動を行っている。同団体は、昭和56年度から現在に至るまで、毎年1回(7月中旬)、組合員及び一般住民の方も含む、約100人が一丸となり清掃活動を行っており、平成19年度から令和2年度までに約57.7トンもの漂着物を回収しており、周辺海岸の景観・環境保全に大きく貢献、尽力し、地域の海岸愛護、保全意識を啓発する活動として模範となるものである。

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
2	青森潟県	団体	<small>たいないしりつつきじしょうがっこう つきじちゅうがっこう</small> 胎内市立築地小学校・築地中学校 (校長 <small>おかざき こういち</small> 岡崎 功一)

(功績概要)

胎内市立築地小学校・築地中学校は、平成21年より小中協働の重点活動の一つとして、地域住民や諸団体の協力をもとに「小中合同クリーン大作戦 in 村松浜」を行っている。活動のねらいとしては、築地の海岸をよりきれいにすること、また、児童生徒に故郷を愛する心を育むことを目標に設定し、継続して取り組んでいる。このような活動は、子供たちの海岸愛護意識向上においても大きく貢献するとともに、地域の海岸美化、保全意識を啓発する活動として模範となるものである。

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
3	石川県	団体	<small>の と けんせつ かがしきがいしゃ</small> 能登建設 株式会社 (代表 <small>や の こうじ</small> 矢野 好二)

(功績概要)

能登建設株式会社は、平成12年7月から創立記念事業の一環として、本社のある珠洲市三崎町の三崎海岸において、建設機械を活用した清掃活動を毎年行っている。近年は海岸清掃後に地元の子供たち及びその保護者と、ヒラメの稚魚の放流も行っている。これらの活動は、能登の里山里海の保全に大きく貢献し、子供たちの海岸愛護意識向上においても大きく寄与するものとなっている。

番号	都道府県名	個人又は団体別	氏名又は団体名
4	兵庫県	団体	ひょうごけんりつとよおかそうごうこうとうがっこう 兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ (代表 <small>やまもと ひろはる</small> 山本 宏治)

(功績概要)

同団体は、平成22年に設立され環境保全を中心に活動しており、海岸清掃は平成22年から毎年、豊岡市の海岸をメインに実施し、陸からは立ち入りできない入江等の海岸清掃も、カヌーによるゴミ回収を行う等、熱心に取り組んでいる。また、回収したゴミの再活用にも取り組んでおり、漂着浮遊ゴミをプランターに加工、地元商店街等へ活用を呼び掛けている。近年は、国内外の奉仕活動団体と交流し、日本海側特有の海外からの海洋ゴミ漂着やマイクロプラスチック流出の削減への重要性を広く発信している。

番号	都道府県名	個人又は団体別	氏名又は団体名
5	山口県	団体	やまぐちけんつりだんたいきょうぎかい 山口県釣り団体協議会 (会長 <small>おかむら はるよし</small> 岡村 晴義)

(功績概要)

本団体は、海岸の環境整備保全を目的に、昭和 46 年に発足した。幼児から大学生・協賛企業・ボランティアの参加による海岸清掃及び埠頭清掃を実施。また、参加した子供たちにマイクロプラスチックによる海洋汚染やツメタガイなどの有害生物について環境教育を実施し、海岸清掃の重要性について学習している。このような活動は、海岸の美化等に大きく貢献するとともに、地域の海岸愛護、保全意識を啓発する活動として模範となるものである。

2-2. 海岸事業に関する研究（2個人）

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
6	宮城県	個人	<small>しゅとう のぶお</small> 首藤 伸夫 <small>とうほくだいがく めいよきょうじゅ</small> (東北大学 名誉教授)

(功績概要)

首藤氏は、1960年チリ地震津波以降、長きにわたり津波の現象及び津波による災害について調査・研究を行い、自ら提唱した「津波工学」の確立に努めてきた。氏の研究功績は社会的な活動を形成する陸域を含む沿岸域における津波の挙動を、数値解析による手法を確立したことにある。この数値解析手法は、TIME計画として国内外に技術移転され、各国の津波災害軽減計画の作成に適用され、2011年東北地方太平洋沖地震による震災復興計画の策定にも活かされ、研究成果の果たした功績は海岸事業をはじめ、震災復興へ大きく貢献するものである。

番号	都道府県	個人又は団体別	氏名又は団体名
7	佐賀県	個人	<small>みうら てつひこ</small> 三浦 哲彦 <small>なんじゃくじばんけんきゅうじょ しょちょう</small> (軟弱地盤研究所 所長)

(功績概要)

三浦氏は、平成19年度に完了した「有明海岸直轄海岸保全施設整備事業」において技術的指導を行い、軟弱地盤の上に海岸堤防、内水排除施設を整備し、有明海岸において頻繁に発生していた高潮による浸水の被害防止に、顕著な成果を上げ、有明海沿岸を守るために大きく貢献した。また、佐賀平野を中心とした、軟弱地盤の研究にも取り組んでおり、社会資本整備審議会の専門委員を務める等、日頃より国土交通行政において、尽力している。

